



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：策定計画数	指標の求め方：地球温暖化対策に係る計画数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：市の事務事業に伴う二酸化炭素排出量	指標の求め方：燃料・電気使用量から算出

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/策定件数)	計画値 実績値	1 1	0 0	0		0 0	1		0 0	0 0	0 0	1		
	成果指標 1 (単位/t)	計画値 実績値	11,452 10,427	11,336 10,895	11,220		11,105 10,989	10,880		10,770	10,660	10,550	10,440		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 成果指標について、市立病院を中心に各施設の燃料の使用量が減少したことにより計画値に比べて実績値は減少した。今後も二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組みを継続していきたい。	自己分析： 成果指標について、計画値に比べて実績値は下回ったが、市立病院のCO2排出量が主な原因で、前年度実績からは増となった。今後も二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組みを継続していきたい。	自己分析：	判断理由： 達成度、成果は指標の動向から上記のとおり判断した。効率性は従前より事業費がかかってないため「変わらない」とした。これらをトータルして、総合評価は「普通である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 「第3期 砂川市地球温暖化対策職員行動計画」では、CO2排出量の基準年度を計画期間直前の令和2年度とし、令和7年度を目標年度に設定している。 令和3-4年度のCO2排出量は、計画値を実績値が下回っているが、前年度と比較し実績値は増加している。 改めて職員一人ひとりが環境意識を高め、DXの推進による業務効率化などにより、引き続き市の事務事業に伴って発生するCO2排出量の削減に取り組む。 今後は令和7年度中に策定する予定の次期「砂川市地球温暖化対策推進実行計画」によりCO2排出量の削減に向けた取り組みを進めていきたい。				R8：				R10：						